

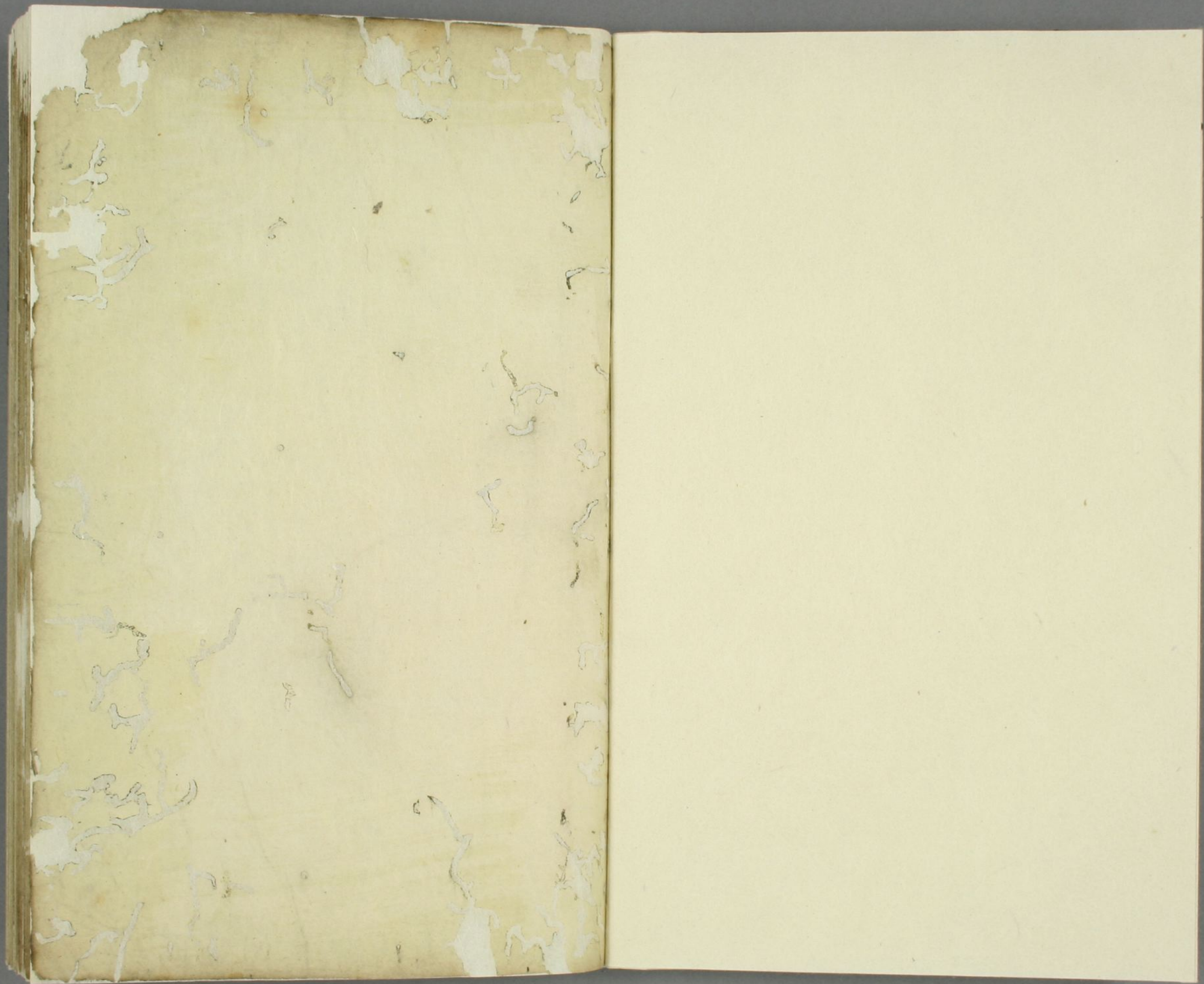


中村俊定文庫

文庫 18

204







今年正當二月十九日七父才午
 二十七周忌也檢香燃華尚以不
 為足故恭請貴句佳吟而為一集
 供牌前矣且以刹那之間孝養
 勿怠之心為心之戒耳

寫し得よ日就も遅く思重經

才牛齋

三升

新十載集

むまるとて字はこひかん物り星い
 ちきりし友のやうさうらを

源空上人

成佛や友はあはむるを八梅

三升母

榮光

芝也くものうらな絶ん佛は生

三升母

翠扇



苦くちたへ女向れ桜四方に咲三姉妹市櫻
追昔や、さるう極樂て花柱外五郎十歳徳辨
物以多り、十里り雲屯し、
心あしと菊枝もあへ女向毒
花々耳上十展轉るも女向文
文色

追悼

きし、さあや、年々、まをれ、夕、八、祿、と、
宗、勿、れ、支、彼、花、傷、や、夜、乃、女、
松、句、子

追善

花、種、名、も、佛、乃、以、名、の、古、句、哉、釋松巴
春、雨、い、ず、ん、ぢ、む、じ、の、海、哉、釋其雄
亡、父、姓、名、も、防、風、れ、句、い、哉、釋夜月

歌僊

ほり、く、と、え、く、う、海、有、彼、岸、に、
埴、敷、う、を、燈、の、地、去、端、ぬ、日、
美、れ、野、の、醜、ハ、枝、ち、り、も、綾、子、也、
歌、詠、魚、し、と、も、思、も、れ、ぬ、歌、
関、の、月、一、重、宿、し、宗、あ、る、を、
泊、洲、
三、升、
青、歳、
壺、月、
来、川、

小夜鳥の序なり 敲く一力屋 咫尺
 黒きあまの祓らるる早き津義若 吳丈
 寄進大工の階日とあそぶ玉史
 住達山元の妹の過子お姉が町 水國
 漆の猫寝るは家おれ又音 蓮之
 番椒いふても海ぬいとと包 成屋
 分別くはく度りにし書 安士
 呪が慈悲の心物々も肌をぬき 貞佐
 姫 一さ助の念佛そじ 執筆

氷破の音は音夜乃月 咫尺
 橋端若れは乃院急水 東里
 茶えんと云わ年中三里紙 水國
 太刀綿銀子う海高れ水 沼洲
 汐吹の味増ははとくふ社務殿 壺月
 灯しは竹のわはに俗才子 青峩
 祭酌をかへははる唐の餅子 三外
 連さ人形くは養一は候 貞佐
 虚無僧のいづそ桐油の匂は 安士

信濃へ取て投りし凍 呂矣

振袖を本は葉のなる歌多 玉之

夜をぬれ奈れ喃あらしきり 来川

常盤をそくをく果れ拂ひ 東里

夕月ほくも赤ッしと臨り 安士

蜻蛉の出命をて括らち林 蓮之

三男素足次男草屋袋 貞佐

青を以夜と大坂名瓶声 沾洲

伏目財布の獺象をん 忍尺

証絶を極めて花れ之と堂 成屋

涅槃門跡を茶の者 壺月

追福 山夕

年幾を菖松奏しと赤二堂 一源

花の吹ぬまもつりしと年代記 青峩

寺のしと支や土器供養しと年 貞佐

重食しとつりし朱もぬ柳

雲西より紋の叙ふいりの母と泰室
世洛より魚籃が手本製ぬ製田螺成屋
筆葉や物活も調へて供養如き浜山
午向の海摺りてよみ藤柳
是ぐ山あり遺教経の古きりぬ
来川
菜の花や関り川筋も向水
起波

同

ぬる蝶の思ひぬ女の形や供養佛
勢吉
赤きも紅梅も花と見えん
仙水

海棠乃花梅ぬをり花もむり月
傘車
抱傳の智恵はを紋とすの母と
青條

追慕

語出次香より入るる梅香
貞磨
常やとと音うらうらと
蓮雨
むらり此の苦き井路の臺
沾郷

追慕

汝ら父おのめくくら宵廻向
素丸
月のこころに形見乃紋所
長水

遠序

詩や瓜切二月は多句草
車員
精船舳八唄ひ初は波名境
雨磧
傍正の社焚ひ梅志は望
吟又
茅の茎や露やけり来は向摩
嵐朝

追懐

六ッねの巻を六の唱や花は暮
等子
昔の二葉とほむじ一むじ
我兄
梅散て舞乃春名をり
蟻子

太刀箆と一目率劫後物う海
以中
金札乃大福帳や怯名華
放訓

亡父の周忌かありてまのほくの
女供甚きとくく
光廣のり楊が枝かほくしてそんり
とありしも似て

あまの葉身雪めて女楊
百菴
らうし声音ふもあまの祈
沾瀉
生残る人と教り多実うな
沾魚
蝶乃舞とのすにさうへ
十指

指はすや梅乃すまも都卒天 可圭

悼古

又しや世ふ初鳴神も西乃空 和風

世の詠乃梅香一や方百里 夜霜

十牛ハ世々れ鏡花の足 闇礫

遠忌

比二月めと堆朱れ女白伽羅 鳳翠

故市川才牛ハ兎吉と戯稱して

世よ知もつと子三外次く名は

鳴々々々々々今尚去の榮庚戌

歳如月慈父廿七周乃作善

舟のあふ所の能句とよりのて

海よ劉宋謝超宗の殷叔妃に

誄とけりてて鳳毛れ養あは

事と称せし類れを委司

ふとこととあ四徳活洲の序踏

のらん才牛世ふある時業を

同し〜方もれ更友に於てある
て多岐経書なる所のいふに年
時日戒名の寺号何となくし
點鬼簿に記さるる朝夕香飯
を備へるゆゆ人の海世と云と
乃三井とて交れ仕置るゆゆ
志大かりく元禄十七年と
今より小至るると七人七千
あけ遠くともとあけありと彼

名をあら〜るをわらそ四知の
部人〜路主を得るはその
名あけゆ癖ゆゆゆて既白な
ぬ〜續のま〜乃趣林ゆ〜書の
ら〜いゆ〜せ〜ま〜ま〜と
高水ゆ〜む〜いあ〜とと
死〜ゆ〜ゆ〜の肉ゆ〜ゆ〜
乃ららの道三冊中なる教ゆゆゆ
ゆゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆゆゆ

是心北苑たる心去る處老るあ
花さるも結さるも同くあはれきま
こそゆきまればうづれしや如や
句情を吟してよの世帯とる世
音律とる得たりはつゆいさる
家浄る風は昔も身ちく吹
あそびとてさそはる詞花言世
乃ちちりくさか乃ちとあはれ
うきつらとるも野るはれ

可なりとあはれ

ちりて

元禄十七甲申年

俗名

門譽言入室覺榮

古市川團十郎

二月十九日

増上寺中

常照院

逢土敷乃父心切也維念其

其角

元禄十七甲申年俗名

正心院宗慶日淨

右坂東又太郎

二月廿八日

下谷宗延寺中

正理院

咫尺

此乃下次坂東又太郎又高解

寶永元甲申年

俗名

宗順院日耀

荻野澤之蒸

八月十九日

浅草新寺中

淨林寺

青峩

圓形くま帽子れ人目以格梗

宝永二乙酉年

俗名

妙莊院普觀日門 小嶋平七

七月十三日

三田 藥王寺

敷盛乃佛堂の没ゆく世終
去て二十余年

沉詳

朽り糸て麻のこくを魂灯籠

宝永二乙酉年

俗名

岸譽助給

古西國兵五郎

十二月九日

伊皿子

長安寺

貞佐

掃^ケ也煤古^ク之^ニ鳥帽子^ヲと^シ物^ノ天窓

宝永三丙戌年

俗名

長阿宗林

生嶋大吉

四月廿四日

淺草日輪寺中

寶珠院

俱^ニ胎^ノの^ニ豎^ノ指^ヲ亦^レ領^テ悟^リ——^ニ此^ノ童^子也^ト人^ノ乃^リ凡^ノ流^ト一^ニ齊^ニ流^也也^ト伴^ノ宗^ノ此^ノ佛^ノ果^ハ公^ノ任^レ也^ト九^ノ品^ノ第^ニ一^ノ品^ノ也^ト也^ト

文東

かゝるて四^ノ切^レ々^ノ此^ノ志^ヲ々^ノ袖^ヲ也

宝永四丁亥年

淨譽念求

正月廿七日

浅草誓願寺中

俗名

出栗嶋小晒

快樂院

桃舟

宵枕根乃山々毛々以法出所卜葛

宝永五戊子年

心鏡院杏實日映

俗名

古中村七三郎

二月三日

本所法恩寺中

寶泉院

沿德

弓流寸秘也形之所小被管也

宝永五戊子年

智山常光

俗名

出栗嶋半弥

四月廿二日

浅草八軒寺町

東陽寺

富百

鳩此菓乃法わお朱山名や飛雲

宝永六己丑年

俗名

通照院道入月念

上村花右衛門

五月廿日

谷中

長運寺

春耕

其あゝ柏木うきそく依九長坊

宝永七 庚寅年 俗名

花容院清林日香 三尾木難波

二月六日

三田

藥王寺

釋 專吟

はるくやくい角をい粒乃春量品

あめ吟八百六日追福の句也

宝永七 庚寅年

俗名

廣受院宗林日記 葉山岡右衛門

五月廿二日

浅草新鳥越

圓常院

倫里

楷ぐ其の時多れ輝りきと

室永七庚寅年

儀山全勇

六月廿日

愛宕後通

忠岸院

俗名

横山六郎治

故一

蟬乃外水けくもろ此ある事也

正徳元 辛卯年

願譽順推言信入

十月十九日

俗名

小勘太郎治

増上寺中

唱泉院

泰室

壺折乃強河片うひぐ桐虫楠

正徳元辛卯年

明宗光還

十一月十五日

増上寺中

浄運院

俗名

小野川千孝

里童

菴々みて他様より時々々様

正徳二壬辰年

智相明光

六月朔日

増上寺中

浄運院

俗名

久松多三太

嶺二

声足しんききさうま向乃其確

正徳二壬辰年

深性理還

十一月廿四日

増上寺中

觀智院

俗名

市川若松

女

市櫻

山茶花や丹山堂とゆふ児善賢

正徳三癸巳年

林公羽淨清

正月十二日

今戸

慶養寺

俗名

村山四郎治

土菴

香小匂小丹前村乃梅白

正徳三癸巳年

俗名

圓寶院玉山目登

古風世世三郎

閏九月十五日

下谷

宗延寺

安士

はよのぬ女形あるとまゝ口風

正徳三癸巳年

俗名

本住院道觀日法

中村傳九郎

十月廿五日

牛嶋 妙玄寺

一物比奈八家のり

一乃乃奇一也

一柏子子名岩

沾洲

三好乃芝と申す如ひ事町舎式

正徳五乙未年

俗名

正等院宗覺日成

花井源光衛門

五月十八日

三田

藥王寺

杵曉

さるを魚て陳皮櫃の本儀為也

正徳五乙未年

俗名

圓心院宗壽日量

中川峯之助

七月四日谷中三崎妙因寺中

一乘院

因之患門之即う秀光も各市川の
流き情し其中向舟世も所志はく
世よわて家屋の外舟出昼とよく
ものキ一我吾又と終り有り三外
茲又追級乃ばめて舟出きとのが六
いとくは隣のみそらとをそらたも
向らなり

半鱗

松葉寺大塔乃文得草

正徳九し未年

芝風柳岸

俗名

虫来嶋吉弥

七月十九日

深川本誓寺中

齡閑院

琴助

一葉散ばるるや花散也此上

正徳五し未年

實相院日了

俗名

左近伊兵衛

十一月廿三日

谷中

長運寺

藤橋

口切也紗金緒ひ乃衣裳付也

正徳五乙未年

映譽言飾運

十二月十九日

増上寺中

觀智院

俗名

瀧川吉平治

菊丈

予の跡也ゆみちぬ松乃使若男

正徳六丙申年 俗名

真光院了智目信 古中嶋勤九衛門

四月廿一日

坂本入屋

感應寺

一漢

かひすり牡丹もうとふ二蓋笠

正徳六丙申年 俗名

玄洋院義進日妙 中林源之助

四月廿四日

雜司谷

本能寺

文声

樂屋て八重成男子の杜有

正徳六丙申年

俗名

玄休院日温

出来嶋在九郎

五月十九日

法恩寺中 正運院

正徳翁ハ合歡堂吉少長ハ
杏實在立高也口口一蓮の
法恩寺中

八町

合歡杏子石少福也十石下墓並ハ

正徳六丙申年

俗名

苔岸蓮暉

濱崎磯五郎

六月十三日

谷中

盛泰寺

雲居ちれ上人膽西説經の

乃雨とるまて中より

かゝりあれハ 袋草紙 玉史

又之を守屋ハ法乃敵役

享保元丙申年 俗名

誓喫言本哲靈殘

藤田長左衛門

六月十四日

深川靈巖寺中

深照院

世長九石つゝ名上之文之

鷲越乃古兵衛り中也

車声

風甘菊乃藝云者ら一物音呼

享保元丙申年

俗名

學陽善知

吾妻東藏

九月五日

谷中妙円寺中

一乘院

山岸鷺

吾妻とくうりく彪也 祝福筆

享保元丙申年

俗名

真行院淨立目信

西村弥平次

十二月十七日

法恩寺中

千林房

雨樞

又河豚良菜口如苦笑ひ

享保二丁酉年

性與言真了

作名

古市川團四郎

五月二日

深川 正源寺

巳中

文之と別なり蟬乃能

享保二丁酉年

觀與言量喜

俗名

鈴木平吉

十月十一日

靈巖寺中

正覺院

里御

鬢負梅夢かけしはてふあちの紅葉

享保三戌 戌年俗名

淨心院善教日順 村山平右衛門

六月五日

谷中

牧福寺

茨鷄

多量月之氷筋所ぬおまをのゆり

享保三戌 戌年俗名

實教院永遠日感 古鎌倉長九郎

十一月廿一日

谷中

長運寺

貝錦

明六乃の補房申しをわんた

享保三戊戌年

梅譽言證山

十二月八日

淺草寺町光威寺中

俗名

古山下輕藻

栄林寺

十町

年と見ゆ山乃中切立二月

享保四己亥年

馨譽言良薫

正月廿八日

鳥越壽松院中

俗名

坂田衛門

隆宗院

富川

氷多々如るるは皆此所解

享保四己亥年

心譽助給

俗名

竹田源助

六月六日

橋場法源寺

輕業めあは猿うへりし

しるし源助をとりけりし宗之

はるうきて務ふまはるし

享保四己亥年

俗名

華屋順栄

山村惣左門

八月八日

浅草

天山獄院

兎江

手ぬははしき縁起をのちる約箱編

享保四己亥年 俗名

真如院傳齋日教 早川傳五郎

十一月廿日

本所押上村 春慶寺

門券入室覺常居士きしゆら
中九日初とちりきしゆら
人亦年と経用りまりて
忌日たりこくやまのり

成屋

高杉もきしゆらはる日蛇と目

常州新治部

中平月

合月